体育授業における生徒の心理社会的スキルが学習方略に及ぼす影響

－目標志向性の認知の違いに焦点を当てて－

桝本　雄一　（　兵庫教育大学　）

１．目的

心理社会的スキルは，保健体育科が掲げる柔軟な思考力を養うためや良好な対人関係を築くための基礎となる力である．ここでは，体育授業における中学生の心理社会的スキルに関して２つの研究を進めた．

２．予備調査

１）目的：渋倉ほか(2018)により開発された運動部活動における心理社会的スキル測定尺度が体育授業における生徒の心理社会的スキル評価への援用可能性及び，体育授業における心理社会的スキルと動機づけ雰囲気との関係について検討した．

２）対象者及び方法：中学生 214 名を対象に，心理社会的スキル尺度(渋倉ほか，2018)と，体育授業における動機づけ雰囲気尺度(藤田･杉原, 2018)からなる質問紙調査を実施した．

３）結果及び考察：まず体育授業における心理社会的スキル尺度のモデル適合度指標とα係数の値から信頼性と妥当性は概ね確認することができた．次に動機づけ雰囲気と心理社会的スキルの関係を検討した結果，熟達雰囲気は，男女とも心理社会的スキルに正の影響を示した．一方，成績雰囲気の心理社会的スキルに及ぼす影響は, 男子(思考力, 自己効力感, コミュケーションに正の影響)と女子(感謝の気持ちに正の影響を，協調性に負の影響)で異なることが確認された．これらは，男女ともに熟達雰囲気を強く認知するほど心理社会的スキルを発揮することを示唆している．一方で成績雰囲気は女子生徒にとって協調性スキルの発揮を妨げる可能性があることが示唆された．

３．本調査

１）目的：心理社会的スキルと体育学習方略との関係について，目標志向性の違いに着目し，検討することを目的とした．

２）対象者及び方法：中学生 470 名を対象に，予備調査で用いた心理社会的スキル尺度体育授業版, 目標志向性尺度(藤田，2009)，体育学習方略尺度(小野ほか, 2018)からなる質問紙調査を実施した．

３）結果及び考察：まず目標志向性の標準化得点を用いて群分けを行った結果，解釈可能な 4 群が確認された．次に 4 群ごとに心理社会的スキルを独立変数に，学習方略を従属変数としたモデルの分析を行った．その結果，課題志向性低群は学習方略に対して主に感謝の気持ちや挨拶礼儀が正の影響を，集中力や思考力は負の影響を与えることが確認された．課題志向性高群や自我志向性低群は主に忍耐力が学習方略に正の影響を与えることが確認された．また自我志向性低群の自己効力感は学習方略に負の影響を与えることも確認された．両志向性高群はコミュニケーション，挨拶礼儀，そして忍耐力が学習方略に正の影響を与えることが確認された．このことから，目標志向性の認知の違いによって，心理社会的スキルが学習方略に与える影響は共通点もあるが，一部異なることが示唆された．

４．結論

まず, 生徒の心理社会的スキル発揮を促すには, 熟達雰囲気づくりが有効であると考えられる．また女子生徒のスキル発揮を妨げる可能性がある成績雰囲気を教育現場で実践するには慎重さが求められ，今後さらなる検討が必要になるだろう．

続いて，生徒の心理社会的スキルと体育学習への取り組み方が関連していることが示唆された．ただし，その関連性には，すべての生徒に共通する基本スキルがあることと，個々の目標志向性によって発揮するスキルが異なることが明らかになった．